

## (1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	子どもの成長をみんなで喜ぶまちづくり
施策展開の方向	子どもを産み育てやすい環境のまちをつくる
施策	6：子育て家庭への支援充実
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者同士や子育て応援者などとの交流が活発に行なわれ、育児の負担やストレスが軽減されています。</li> <li>●社会環境や経済環境の変化によらず、安心して子どもを産み育てることができています。</li> </ul>

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の指標である「子育て親子の交流組数」が目標値を達成していること、小児医療費助成を28年10月から前倒して対象を小学6年生まで拡大したことは評価できると考える。</li> <li>・施策の指標は目標値をほぼ達成しているが、市民の満足度が平均に達していない。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	C 計画より遅れている	B 計画どおりの成果 が得られている
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策に子どもの貧困対策を加えるべきである。</li> <li>・子育てサポーターの養成についてさらなる努力が必要である。</li> <li>・施策を構成する「主な事業」がほぼ目標を達成している状況にある。</li> <li>・市民の意見を見てみると、他の部とも連携して総合的に子育て支援の充実を図る必要があると考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意識調査における満足度が平均値をやや下回っているが、ニーズはある程度充足していると考えられる。</li> <li>・子育て世代の満足度が低い。</li> <li>・市民自由意見では、公園整備などの施設充実を求めているものが多い。</li> <li>・市外から移り住んできた方の意見として、他市と比べて伊勢原市の子育て環境が整っていないと聞くことが多い。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	C 反映できていない	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの医療費助成だけでなく、子どもの遊び場や子どもの貧困など、様々な課題があると考えられる。</li> <li>・市民意識調査の自由意見でも多くの方から、小児医療助成事業に対する要望があがっている。</li> <li>・子どもの貧困について把握しており、課題の捉え方としての的確であると考えられる。</li> <li>・子育て支援の充実という課題を捉えるにあたり、ソフト面の施策は目標を達成しており評価出来るが、総合的に考えると公園などハード面も考える必要があると考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代に選んでもらうまちにするため、様々な施策を実施する必要がある。</li> <li>・現在の課題に取り組むことを前提として、拡大して施策を実施するべきと考える。</li> <li>・切れ目のない総合的な相談支援体制の構築やその拠点となる子育て世代包括支援センターの整備の検討が必要であると考えられる。</li> <li>・伊勢原における子どもの貧困の実情や対策を具体的に進める必要があると考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施

(1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	子どもの成長をみんなで喜びまちづくり
施策展開の方向	子どもを産み育てやすい環境のまちをつくる
施策	7：多様な働き方が選択できる保育の充実
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多くの人たちが、健康づくりのための体力づくりや食生活改善に取り組むようになっていきます。</li> <li>●自ら進んで健康診査や検診を受診し、健康状態の確認ができています。</li> </ul>

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	C 計画より遅れている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の定員数を増員したにも関わらず、待機児童の解消が見られない。</li> <li>・施策指標の目標達成状況、主な事業の評価も良いが、待機児童の問題など、まだ対応できていないところがあると考ええる。</li> <li>・新しい保育施設の開設等を推進する事業が弱いと考える。地域における子育て施設のバランスを是正が必要であると考ええる。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成果 が得られている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童コミュニティクラブの利用対象学年が引き上げられたのは評価できる。</li> <li>・子ども・子育て支援新制度など働く保護者のための受け皿は増えてきているが、就学した後の受け皿も考える必要があると考ええる。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	c 構成に問題がある	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童コミュニティクラブ、放課後子ども教室等の取組により、低学年の小学生の子どもを持つ保護者の評価は高いが、未就学児童を持つ保護者は、就労と子育てが両立せず不満となっている。</li> <li>・市民意識調査では満足度が平均点を上回っているが、子育て世代の満足度は、子育て家庭への支援の充実と同様に平均値を下回っている。</li> <li>・子育て支援制度に対する市民ニーズが、計画策定時より大きく増えていると考える</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童コミュニティクラブの教室、支援員の確保が課題である。また、民営化の検討が必要である。</li> <li>・待機児童解消のためには、保育所の開設が必要であると考ええる。</li> <li>・子ども・子育て新制度にいち早く取り組んで待機児童の解消に取り組んできているが、時期による待機児童の増減などを考える必要がある。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模保育施設の開設、児童コミュニティクラブ事業について、待機児童の解消に向けて教室や人員の確保に努めることが重要である。</li> <li>・今後乳幼児を教育する選択肢は多岐に渡っていくと予想される。それぞれの事業所が対応できる範囲を把握し、就学後の対応についても幼稚園や保育所などが対応できるよう、事業を拡大することが必要であると考ええる。</li> <li>・施策の多様性と質を担保するとともに、保育士の処遇改善策が重要であると考ええる。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	子どもの成長をみんなで喜ぶまちづくり
施策展開の方向	子どもや若者の成長と自立を支えるまちをつくる
施策	8：次代を担う子ども・若者の育成支援の推進
目標とする状態	●次代を担う子ども・若者が、体験学習や地域の人々との交流を通じ、将来に希望をもち、健やかに成長しています。 ●若者が、地域社会と関わり多様な価値観に触れることで、社会性を身につけ自立しています。

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策全体としては計画どおり進んでいると考える。</li> <li>・地域の事業などに若者の十分な参加が見込めないと考える。</li> <li>・放課後子ども事業や相談事業などは成果が得られているが、多様な体験学習に参加した子どもが目標値より低く、また、延べ人数なので実質はもっと少ないような感じを受ける。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	C 計画より遅れている	B 計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年を対象とする学習の場を自治体が提供することは難しいのではないかと考える。</li> <li>・施策を構成する「主な事業」が目標達成を達成している状況にある。</li> <li>・それぞれの事業が成果を上げているので適切な構成であると考え、多様な体験学習の中身は様々な子どもが参加できるものが望ましいと考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査の満足度が平均値を上回っている。</li> <li>・満足度、重要度共に平均値を上回っているが、ほぼ平均値なので市民意識を充分反映されているとはいえないが、相談事業など需要の多くは対応していると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域の中で子どもを見守る仕組みづくりを推進することが必要であると考え。また、自治会、福祉関係団体、ボランティア等の連携強化も必要であると考え。</li> <li>・多様な学習体験や地域の事業への参加などに関しては、まだまだ目標値に達していないので、若者と地域を結びつける取組が必要であると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども、若者に対しては継続的な育成支援が必要である。</li> <li>・継続実施を選択したが、地域と若者を繋ぐ工夫が必要であることを追加する。</li> <li>・交流の場を広げることが必要であると考え。また、支援する人、交流する人、ボランティアの育成が重要であると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	A 拡大して実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり
施策展開の方向	子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる
施策	9：きめ細やかな教育の推進
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員の指導体制の充実、児童生徒の一人ひとりに適した指導が行われ、児童生徒が確かな学力を身につけています。</li> <li>●地域の特色を生かした教育の推進、学校、家庭、地域の連携した支援などにより、児童生徒が豊かな心をはぐくんでいます。</li> </ul>

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強の理解度の割合は、小・中学生ともに目標値を達成する見込みであるが、不登校児童生徒数が目標値に達しない見込みである。</li> <li>・勉強が分る生徒の割合が小学生では伸びており、中学生では目標値に達している。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置することにより、児童、保護者の抱える問題に対し、改善が見られ有効に機能していると考え。</li> <li>・スクールソーシャルワーカーの配置、教育相談、通級指導教室は、児童生徒や保護者の問題に対応し、改善に寄与していると考え。</li> <li>・主な事業の目標達成状況や評価結果から、施策に事業構成は適切であると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		b 概ね妥当である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されて いる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意識調査結果は平均値を上回っている。</li> <li>・満足度、重要度ともにほぼ平均値であり、市民意識は概ね反映されていると考え。</li> <li>・市民意識調査の自由意見には、伊勢原らしい教育の充実などの意見もあるため、今後の課題にもなると考える。</li> <li>・市民ニーズに対する人材、予算が不足していると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に 一部不足が見ら れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育格差の問題を踏まえ、基礎的な学力向上、教育環境整備が必要である。</li> <li>・適正な人的配置、適切な人材確保が重要である。</li> <li>・より質の高い教育を考え、教職員の仕事量や分担を考えた方が良いと考える。また、今後、特別支援を必要とする児童の増加に対応するため、専門性を備えた教員の増員が必要になることも予想される。</li> <li>・困難を抱える子ども、若者への支援、多様な人材確保の考え方を検討することが必要である。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや不登校等の適切な対応が必要であると考え。</li> <li>・教育格差の是正、不登校など様々な悩みに対応する体制の整備が必要であると考え。</li> <li>・教育相談の多様化など、特別支援の子の自立に関する支援も大きな事業になってくると予想される。また教育要領の改訂で基礎学習に加えて英語教育などが求められてくるため、教員の資質向上が必要であると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施

(1) 施策の外部評価の結果 【第3回】

基本政策	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり
施策展開の方向	子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる
施策	10：安全で快適な教育環境の整備
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小中学校の校舎等の機能が適切に保全され、児童生徒が安全に学校生活を送っています。</li> <li>●小中学校の学習環境が改善され、児童生徒が快適な環境の中で意欲的に学習しています。</li> </ul>

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームルームへの扇風機設置や、校舎の各種修繕は計画どおり完了しており、トイレの洋式化についても計画どおり進捗している。</li> <li>・扇風機設置率などその他校舎の整備等についても順調に整備が進んでいる。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校給食導入について、随分前から議論されているようだが、知識や資料を得るだけでなく、具体的にどのように対応を進めていくかが重要であると考え。</li> <li>・現在の事業構成で適切だと考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されてい る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の自由意見のほとんどは、中学校の給食化、トイレの洋式化の要望になっている。</li> <li>・市民意識調査では、満足度が平均値を上回っている。</li> <li>・自由意見の中で校舎が古い、汚いとの記事があったが、ソフト面の充実に優先的に取り組んだ結果だと考える。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の校舎等改修事業の実施、中学校給食のさらなる検討が必要であると考え。</li> <li>・教育環境を充実していく上で課題を的確に捉えていると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、校舎の老朽化に対する修繕工事を計画どおりに取り組むとともに、トイレをはじめとした学校施設のさらなる改善が必要であると考え。</li> <li>・学校施設の機能改善、安全性の確保、中学校給食が実現するまでの間は継続実施が必要であると考え。</li> <li>・各学校の状態に応じて適宜修善改修を実施することが必要であると考え。</li> </ul>				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 拡大実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	